

令和2年度 事業報告

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年4月には全国を対象とした緊急事態宣言が発出され生活様式の変容が求められる中、薬剤師はエッセンシャルワーカーとして医薬品の安定供給の責務を果たしてきた。

一方で、各薬局では感染拡大防止対策の徹底を図り業務継続に努めてきたが、特に薬局経営の大きな柱である処方箋調剤においては、医療機関の受診控えに伴う処方箋受付回数の減少、長期処方増加による薬剤費の一時的な増加と技術料の減少により、感染者数の増加に連動する形で多くの薬局において薬局経営への影響が顕著となり、今日に至っている。文字通り、コロナに始まりコロナに終わった令和2年度であった。

新潟県薬剤師会の事業については、Web等の活用をこれまでになく進めることにより、このような状況下においても止めることなく有効に機能した。

特に、これまで当たり前のように実施してきた集合研修については、実施時期の延期はあったものの、Zoom等のWebの活用により開催を可能とするとともに、総会、理事会、常務理事会、委員会、地域薬剤師会長協議会等についても同様に、参集とWebの参加形式を取り入れたハイブリッドによる開催を可能とすることができた。

これにより、本会が開催する殆どの研修会や会議等においては、Webの活用により遠方からでも移動することなくリアルタイムに意見交換が可能な新しい開催形式が会員にすっかり定着して、Web活用の成果を実感できた。

新型コロナウイルス感染症対応としては、いわゆる「0410通知」に対応した「CoV宿泊」、「CoV自宅」、「0410対応」としての電話等による服薬指導について会員へ通知するとともに、調剤した薬剤の配送料等の補助について、「薬局における薬剤交付支援事業」の業務委託を受けて実施した。

また、感染拡大に伴う医療用資材不足への初期対応として、国から提供されたマスクや消毒用アルコールの会員薬局等への配布にあたり、取りまとめや配送に協力した。

さらには、新型コロナワクチンの医療従事者への優先接種においては、ワクチン接種希望者のとりまとめ等を速やかに実施して県へ報告するとともに、一般の高齢者から始まるワクチン接種体制の確保における薬剤師の活用のために、自治体や医師会等と連携を図り薬剤師の役割を発揮できるように研修用動画の作成等準備を進めてきた。

コロナ禍の環境で、極めて不自由な状況を強いられた1年であったが、以下のとおり、令和2年度の事業を実施したので報告する。

1 災害等対策の推進

(1) 災害対策にかかる整備及び啓発(継続)

- ① 平時の防災対策、災害時の対応、災害医療の制度等について、新潟県病院薬剤師会の主催により本会と新潟大学医学部災害医療教育センターが共催して、新潟県災害薬事研修会(Web配信)を開催した。

講義1 新潟県の災害医療体制について—新型コロナウイルス感染症、原子力災害医療を含めて—

講 師 新潟県福祉保健部医務薬事課地域医療班 山崎雅幸 氏

講義2 新型コロナウイルス感染拡大下における災害薬事対応

講 師 新潟大学医学部災害医療教育センター 和泉邦彦 氏

- ② 県薬と地域薬剤師会が連携して活動できるよう、防災対策および災害時の対応等について情報提供した。
- ③ 「新潟県薬剤師会災害対策マニュアル」に則り、災害発生時の初動時の対応として情報伝達のため役員のメーリングリストを更新し、情報伝達訓練を実施した。
- ④ 災害時に必要と思われる備蓄品等を追加購入した。

(2) 行政等との連携協力体制の整備(拡充)

- ① 新潟県防災会議、新型コロナウイルス感染症対策協議会、ワクチン接種体制確保に係る情報交換会等に参画して、情報収集に努めた。
- ② 新潟県・弥彦村が主催した総合防災訓練に係る全体会議の書面開催に参画した。なお、訓練は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、関連団体の参加が見送られ、規模を縮小して開催された。
- ③ 柏崎刈羽原子力発電所のPAZ圏内における柏崎市、刈羽村の住民等を対象とした安定ヨウ素剤の協力薬局による薬局配布方式について、新潟県と協議した。

(3) 災害時の救援活動等への協力・対応(継続)

- ① 新潟県医務薬事課との業務打ち合わせ会において、災害薬事コーディネーターの設置や災害救助協力に関する協定書の見直しについて申し入れを行って、意見交換を行うとともに、令和3年度の新潟県予算に対する要望事項として提出した。
- ② 新潟県が実施した原子力災害医療研修会への参加について会員へ情報提供を行い、原子力災害時における安定ヨウ素剤の緊急配布要員の養成に協力した。
- ③ 令和2年7月の豪雨被災会員への義援金を会員から募り、寄せられた義援金を日本薬剤師会へ送った。

(4) 新型コロナウイルス感染症への対応(拡充)

- ① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するため、対策本部会議を開催し対処方針を策定するとともに、会員への情報提供等に努めた。
- ② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う、医療機関におけるマスク不足対策として、新潟県を通

じて国から提供されたマスクを県内の薬局へ配布するとともに、消毒用アルコールの不足対策として国から提供された無償の高濃度エタノールの配布について、地域薬剤師会と連絡調整を行い、受入体制の調整を行った。

- ③ 国による新型コロナウイルス感染症患者等への支援として電話や情報通信機器による服薬指導等を行った患者に対して薬局が薬剤を配送等する費用を支援する「薬剤交付支援事業」の実施要綱に基づき、薬局への情報提供と取りまとめを行った。
- ④ 新型コロナウイルスワクチン接種体制構築への協力として、薬局勤務者への優先接種における接種希望者等のとりまとめを行うとともに、地域薬剤師会への接種体制に係る情報提供等を行った。
- ⑤ 薬剤師によるワクチン接種への協力にあたって、希釈・分注等の手技に関する研修動画を作成して地域薬剤師会等へ配布した。

2 組織強化対策

(1) 会員増強対策の推進(継続)

組織強化の基盤である会員の増加策として、会員証発行、「B会員(管理薬剤師以外の薬剤師)」及び「賛助会員」の加入促進を図った。

(2) 若手リーダー養成事業の実施(継続)

- ① 本会青年部及び新潟県薬剤師連盟の共催により、若手薬剤師の指導者養成を目的とした「令和2年度若手薬剤師フォーラム」を開催した。

テーマ かえていく みらいのやくざいし

基調講演 日本薬剤師連盟副会長 神谷政幸 氏

- ② 本会青年部及び新潟県薬剤師連盟の企画・運営により、若手薬剤師フォーラムフォローアップ研修会(Web配信)を開催した。

テーマ かえていく みらいのやくざいし

(3) 青年部の活動の活性化(継続)

- ① 青年部員の交流等を図るため定例集会(Web配信)を開催した。
- ② 「ロコモティブシンドローム」をテーマとして、今後より一層充実した服薬指導のための知識を深めることを目的に、女性薬剤師会と共催して研修会(Web配信)を開催した。

テーマ ロコモ体操についての講演と実習

講師 青年部 部員 安澤泰永 氏

部員 太刀浦凌 氏

- ③ 各地域における薬物乱用防止普及啓発活動等のイベントへの部員の参画を図るため、各地域へ青年部員名簿を送付した。
- ④ 令和2年度若手薬剤師フォーラム及びフォローアップ研修並びに定例集会の企画・運営を通じて組織強化に努めた。
- ⑤ 活動内容を青年部員に広報するため、青年部メールマガジンを随時配信するとともに、県薬ホームページにメールマガジンを掲載して広報した。部員同士の横の繋がりを強化するため、部員名簿をメ

ールマガジンに添付して配信した。また、青年部Facebookに活動内容等を投稿し、青年部の対外的な広報を行った。

(4) 地域薬剤師会事務局の支援(継続)

地域薬剤師会事務局体制に応じた支援策を講じて、地域薬剤師会活動の充実・強化に努めた。

(5) 部会活動への支援と情報交換会の開催(継続)

- ① 組織強化策の一環として、各部会の活動を支援するとともに、活動状況等について報告した
- ② 部会活動のあり方と支援策について検討するため、各部会長と面談し意見交換を行った。

(6) Web会議等に対応するための環境整備(拡充)

- ① Web接続等を活用した会議及び研修会を円滑に開催するため、新潟県薬剤師会館を改修して新たな会議室を整備するとともに音響設備等の充実を図った。
- ② Web研修の対象を拡大するよう日本薬剤師研修センターへ働きかけを行った。

3 未就業薬剤師の就業促進

(1) 薬剤師無料職業紹介所(継続)

県薬ホームページ等を通じて「薬剤師バンク」の広報を行い、未就業薬剤師の就労促進・斡旋を行った。

4 試験検査の実施

(1) 委託検査等の実施(継続)

試験検査委託契約を結ぶ施設を対象とした医療用医薬品や一般用医薬品、薬局製剤の計画的試験検査を実施した。

(2) 依頼検査等の実施(継続)

薬局等からの医薬品検査等の依頼に応じて試験検査を実施した。

(3) 研修会等への参加(継続)

日薬の「医薬品試験検査に係る精度管理試験」及び厚生労働省の「登録試験検査機関間比較による技能試験」に参加した。

(4) 試薬の販売(継続)

学校給食衛生管理定期検査で使用する食器の残留物検査用試薬を調製し、学校及び学校薬剤師等へ販売した。

5 医療保険制度への対応

(1) 保険薬局研修会の開催(継続)

保険薬局の質的向上を目的として、保険薬局を対象に研修会（新潟会場をメイン会場に長岡・上越・下越・県央・魚沼・佐渡をサテライト会場としてWeb配信）を開催した。

講演 適正な保険調剤のために

講師 新潟県薬剤師会 常務理事 小出智子 氏

特別講演 令和2年度調剤報酬改定と今後の保険薬剤師の果たすべき役割（日薬からのWeb配信）

講師 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 執行役員 田宮憲一 氏

(2) 集団指導、個別指導への立会い(継続)

関東信越厚生局及び新潟県との保険薬局指導に立会い、当該指導の円滑な実施と薬局の適正な保険請求事務の推進に努めた。また、関東信越厚生局新潟事務所と保険薬局指導計画に係る打ち合わせ会を開催し、意見交換等を行った。

(3) オンライン資格確認導入への対応(新規)

全会員薬局がオンライン資格確認に対応できるよう、関連する情報をメールニュースや保険薬局だよりにて会員へ周知した。

(4) 「保険薬局だより」の作成(継続)

保険調剤に関する通知等の情報について、会誌「ジャンファ」等に掲載して会員へ周知した。

(5) 10都県薬剤師会社会保険担当者連絡協議会への参加(継続)

関東信越厚生局管内の各都県における調剤報酬請求に関する審査の状況等について意見交換を行った。

(6) 敷地内薬局の誘致に係る調査(新規)

日薬が行った医療機関による敷地内薬局の誘致に関する調査に協力した。

6 医薬分業に係る質的向上対策

(1) 医薬分業及び「かかりつけ薬局・薬剤師」の定着促進(継続)

- ① 薬局に対し、県民への医薬品についての正しい知識や薬剤師等の役割の理解等の普及を呼び掛けるとともに、「薬と健康の週間」に関する資料を送付した。
- ② 県内の薬局における「かかりつけ機能」の定着度を把握するため、「薬局におけるかかりつけ機能に関する実態調査」を実施した。
- ③ 認定薬局制度等の薬局の機能が法律上整理されたことに伴い「こいがた健康支援薬局」は廃止し、かかりつけ薬局としての基本的機能の整備を呼び掛けた。
- ④ 改正薬機法に関する資料を送付して、改正内容の周知に努めた。
- ⑤ 「健康サポート薬局」の整備に向け、薬局を支援するため、日薬と日本薬剤師研修センターに協力し、健康サポートのための多職種連携研修会を開催した。また、同研修会をWeb開催した。

第1部 健康サポート薬局の基本理念

講演 健康サポート薬局の基本理念(DVD講義)

講師 日本薬剤師会 会長 山本信夫 氏

日本薬剤師会 副会長 田尻泰典 氏

講演 健康サポート薬局の理念 ―地域包括ケアシステムに対応した薬局・薬剤師「新潟県における健康サポート薬局の姿」―

講師 新潟県薬剤師会 副会長 荻野構一 氏

第2部 当該地域の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と健康サポート薬局の連携

講演 「健康立県」の実現を目指して

講師 新潟県福祉保健部健康対策課健康立県推進班 中川圭子 氏

講演 新潟県労働者福祉協議会の取り組みについて

講師 新潟県労働者福祉協議会 専務理事 間英輔 氏

講演 日本健康運動指導士会新潟県支部の取り組みのご紹介

講師 日本健康運動指導士会新潟県支部 支部長 佐藤敏郎 氏

講演 新潟県における医療・保健・健康・介護・福祉等の資源について

講師 新潟県薬剤師会 副会長 荻野構一 氏

第3部 地域包括ケアシステムの中で健康サポート薬局としての役割を發揮するための各職種・機関との連携による対応等に関する演習

進行 新潟県薬剤師会 医薬分業委員会本部委員 田中友康 氏

⑥ 日薬に協力して「オンライン診療に係る緊急避妊薬の調剤に関する研修会」を開催した(Web配信)。

講演 オンライン診療ガイドラインと緊急避妊薬処方について

講師 新潟県薬剤師会 常務理事 笠原敦子 氏

講演 オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方上の留意点

講師 小新女性クリニック 院長 石井史郎 氏

講演 オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について

講師 新潟県薬剤師会常務理事 市橋直子 氏

新潟県女性薬剤師会副会長 大黒幸恵 氏

(2) 処方箋応需薬局の紹介(継続)

処方箋応需薬局を県薬ホームページに掲載し、「かかりつけ薬局」の推進を図った。

(3) 休日等の医薬品供給体制整備(継続)

輪番制による休日当番薬局を県薬ホームページに掲載し、休日における薬局の開局状況を広報することにより、医薬品の調剤・供給体制の確保を図った。

(4) 医療ICT化への対応(継続)

協会けんぽと連携し、協会けんぽが行う県内の薬局におけるジェネリック医薬品の調剤状況の通知事業について、啓発を行った。

7 リスクマネジメント対策

(1) 薬局における医療安全管理体制の整備(継続)

- ① 安全管理責任者の任務と調剤過誤防止をテーマにリスクマネジメント研修会を新潟県病院薬剤師会との共催で開催した(参集とWeb開催)。

特別講演 これからの薬剤師のDI業務と医療安全の確保

講師 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課 中井清人 氏

- ② 会誌「ジャーナル」にプレアボイド事例を掲載し、会員の取り組みを支援した。

(2) 高度管理医療機器販売等に係る継続研修会の開催(継続)

日薬が主催する「高度管理医療機器販売等に係る継続研修会」に共催し、医療機器販売等の営業所管理者を対象とした継続研修会を開催した(参集とWeb開催)。また、ビデオ配信による補講を開催した。

講演 医薬品医療機器等法その他薬事に関する法令

講師 新潟県福祉保健部医務薬事課薬務係 荻野寛子 氏

同薬事指導係 反町守 氏

講演 医療機器の品質管理、不具合報告及び回収報告、情報提供

講師 新潟薬科大学薬学部臨床薬学研究室 教授 朝倉俊成 氏

(3) DEM事業の広報(継続)

日薬が行うDEM事業について、会員の勤務する保険薬局に対し周知して、事業への参加を啓発した。

8 在宅医療・介護対策

(1) 在宅医療に関する薬剤師のスキルアップの支援(継続)

- ① 在宅医療における薬剤師のスキルアップを図るために、新潟県と連携して医療介護総合確保基金を活用し、地域薬剤師会の協力を得て、フィジカルアセスメント、服薬支援策・副作用モニタリング、無菌調剤等にかかる以下の研修会を開催した。

・フィジカルアセスメント研修会(Web配信)

講演・実技 薬剤師に必要なフィジカルアセスメント

講師 新潟県薬剤師会 常務理事 桂重之 氏

新潟県薬剤師会 理事 吉田智彰 氏

・薬効評価と副作用モニタリングのためのバイタルサイン研修会(Web開催)

グループワーク① 「薬学的管理指導のために、どのような患者情報(自覚症状、身体所見、検査所見)の把握が必要か」

グループワーク② 「得られた患者情報(自覚症状、身体所見、検査所見)をどう評価するか、どのような対処が必要か、誰にどのように情報伝達するか」

・無菌調剤に係る基礎研修会(参集とWebによる同時開催)

講義 薬局における無菌調剤の必要性和無菌調剤に係る手続き

講師 新潟県薬剤師会 常務理事 五十嵐央 氏

講義 無菌調剤に関わる消毒と調剤手技

講師 日本歯科大学新潟病院薬剤科・新潟県病院薬剤師会 竹野敏彦 氏

講義 在宅医療における栄養・輸液製剤について

講師 新潟県薬剤師会 常務理事 宮川哲也 氏

- ・無菌調剤室の共同利用の契約に必要な知識・技術の習得を図り、無菌調剤室の共同利用の推進を目指し、「無菌調剤室における実技研修」を計5回開催した(新潟4回、長岡1回)。
- ② 在宅患者アセスメントと多職種への提案のための研修会を計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催を中止した。なお、研修で用いる事例見直しのため応用研修講師担当者打ち合わせ会議を開催した。
- ③ 地域医療介護総合確保基金事業新潟県計画「認知症ケア人材育成事業」の一環として、新潟県と連携して研修会を開催した。

・薬剤師のための認知症対応力向上研修会(参集とWebによる同時開催)

第1部 講義 薬剤師認知症対応力向上研修

基本編

講師 総合リハビリテーションセンター・みどり病院 病院長 成瀬聡 氏

対応編

講師 地域薬剤師会研修担当講師 本間雅克 氏

制度編

講師 新潟県福祉保健部高齢福祉保健課在宅福祉班 山田知佳 氏

第2部 個人ワーク「認知症の人と家族に薬剤師ができること」

進行 新潟県薬剤師会 理事 吉田智彰 氏

- ④ 在宅医療における薬剤師の活動事例等からの寄稿を会誌「ジャーニファ」に掲載し、薬剤師の資質向上を図った。

(2) 医療・福祉等との連携促進(拡充)

- ① 新潟県と連携し地域医療介護総合確保基金を活用して、地域薬剤師会における在宅医療に係る多職種との連携の促進を図った。
 - ・無菌調剤室共同利用の推進に係る多職種連携会議を2回開催した。
 - ・介護サービス事業者等を対象とした「おくなり相談会」の開催を計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため開催しなかった。
 - ・在宅医療に係る地域薬剤師会担当者会議を開催した。
 - ・多職種を交えた「在宅医療・介護に関する座談会in新発田」を新発田市で1回開催した。
 - ・県薬ホームページの「薬局紹介」の情報を更新した。
- ② 「新潟県内における薬局薬剤師の在宅訪問業務による効果に関する後ろ向き研究」を実施した。
- ③ 自立支援のための介護予防に関する地域ケア個別会議へ助言者等を派遣した。
 - ・市町村で開催された介護予防のための地域ケア個別会議へ育成研修の支援者9名を派遣した。また、地域における助言者を育成するため、同会議の見学者として延べ39名の薬剤師を派遣した。
 - ・新潟県地域包括ケア支援専門職協議会の構成団体として、会議、研修会等に参画した。
 - ・介護支援専門員協会の会員として参画した。

9 医薬品販売制度への対応

(1) セルフメディケーション推進のための一般用医薬品等の活用等に関する啓発活動(継続)

① 健康サポートのための薬剤師の対応研修として、以下の研修会を開催した。

・健康サポートのための薬剤師の対応研修会(研修会B)

講義 薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局

講師 新潟県薬剤師会 副会長 松島邦明 氏

講義 薬局利用者の状態把握と対応(題材:頭痛)

講師 新潟県薬剤師会 常務理事 市橋直子 氏

② 一般用医薬品販売制度やセルフメディケーション税制について、会誌「ジャーナル」及び県薬ホームページ等で広報し、会員への情報提供に努め、薬局等の対応について支援した。

(2) 医薬品販売制度への対応(継続)

① 日薬の「医薬品販売制度に関する自主点検」を実施し、会員薬局の法令遵守を啓発した。

② 医薬品販売制度実態把握調査の結果を受けて、日薬からの要請により、県担当者を訪問し、県内の医薬品販売制度の遵守状況等について情報交換を行い、日薬へ報告した。

③ 登録販売者の勤務する薬局の開設者に義務付けられている登録販売者の研修会を新潟県医薬品登録販売者協会と共催して3回開催(通信講座及びWeb配信)した。また、第2回研修では桂委員長が「薬のみ合わせについて」の講義をした。

10 薬局製剤の推進

(1) 漢方研修会の開催(新規)

漢方の考えをもとにした食事についての知識を深めるために、当初薬膳をテーマとした講義を含めた漢方食事会を計画していたが、感染拡大防止のため、内容を変更して漢方研修会(Web配信)を開催した。

講義 漢方から考える食事

講師 一般用医薬品・薬局製剤・漢方委員会 本部委員 廣橋義和 氏

講義 気軽に楽しめる薬膳レシピ

講師 一般用医薬品・薬局製剤・漢方委員会 本部委員 西山淳子 氏

11 薬剤師養成のための薬学教育への対応

(1) 実務実習受入体制の整備と指導薬剤師の資質向上(継続)

① 認定実務実習指導薬剤師資格更新への対応等も含めた実務実習生受入薬局への支援を強化し、受入体制の整備を図った。

・認定実務実習指導薬剤師養成のための講習会を計画したが中止となった。

・認定実務実習指導薬剤師認定更新のための講習会を計画したが中止となった。

・関東地区調整機構からの依頼を受け、2020年度薬局実務実習受入に関する調査を行い、その結果を報告した。

② 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップの開催を計画したが中止となった。

③ 実務実習指導薬剤師研修会を開催した(Web配信)。

講 義 これからの時代の実務実習と大学教育との連携

講 師 帝京大学薬学部 教授 小佐野博史 氏

事例紹介 令和2年度実務実習受入薬局、病院4施設

④ 新潟県内における認定実務実習指導薬剤師養成研修の受講に係る希望状況を把握し、今後新潟県で必要かつ適正な研修計画を立てることを目的として、同研修受講希望者を対象に「認定実務実習指導薬剤師養成研修に係る希望調査」を実施した。

(2) 関東地区調整機構・日薬会議への参加(継続)

① 薬学生実務実習の円滑な実施を図るため、薬局実務実習受入に関する関東地区ブロック会議を幹事県としてオンラインにて開催した。

② 薬学生実務実習の環境整備やワークショップの円滑な実施等について協議する病院・薬局実務実習関東地区調整機構指導薬剤師養成小委員会や総会に役員等が出席した。

③ 新潟薬科大学及び新潟県病院薬剤師会と連携して、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習後の課題や実務実習の質を向上させるための施策について討議した。

12 地域保健対策の推進

(1) 「消費者のための薬のセミナー」の開催(継続)

地域の健康維持と保健衛生の向上に資するため、新潟県薬事啓発事業の補助を受け、消費者のための薬のセミナーを52回開催した。なお、「おくすりセミナーBOOK」の増刷は行わず、厚労省・日薬作成の「知っておきたい薬の知識」を参加者に配布した。

(2) 薬物乱用防止事業の推進(継続)

① 薬物乱用防止啓発資材(ポケットティッシュ)を作成し、県を通じて県民へ配布した。

② 新潟県等の依頼を受け、薬物乱用の未然防止を図るためのポスターやリーフレット等の啓発資材を地域薬剤師会へ送付し、薬のセミナーや他団体等が主催する健康まつり等のイベントで配布して広報に協力した。

③ 新潟県薬物乱用防止対策推進本部会議の本部委員として参画し、行政との連携を図った。

(3) 薬事衛生指導員研修会の開催(継続)

薬事衛生指導員のスキルアップ及び新任薬事衛生指導員の養成を目的とし、薬剤師を対象とした研修会を開催した。

講 演 消費者のための薬のセミナー事業について

講 師 新潟県薬剤師会 常務理事 市橋直子 氏

講 演 わたしのおくすりセミナー

講 師 薬事衛生指導員 五十嵐丈二 氏

薬事衛生指導員 松島邦明 氏

(4) 「薬と健康展」等、薬事啓発事業の実施(継続)

- ① 新発田市が主催する「健康づくりフェスティバル」において、下越薬剤師会と連携し、新潟県薬事団体連絡協議会と「薬と健康展」を共催してブース出展を計画したが、中止となった。
- ② 新潟はっぴー乳ライフ実行委員会に参画した。また、新潟はっぴー乳ライフ主催「ピンクリボンホリデー2020」にブース出展を計画したが、講演(Web配信)のみの開催となった。
- ③ 新潟県健康づくり財団が主催するがん征圧新潟県大会併設「生活習慣病予防展」に柏崎薬剤師会の協力を得てブース出展を計画したが、中止となった。
- ④ ジェネリック医薬品について正しい知識を県民へ啓発し、ジェネリック医薬品の利用促進を目的としたテレビ番組を2回放送した。また、薬のセミナー等を活用し、ジェネリック医薬品の説明等を行うとともに、他団体主催の健康関連イベントにて啓発資材を配布した。
- ⑤ お薬手帳の活用等について県民の理解を深めるために、啓発資材を作成して薬のセミナー及び他団体等が主催する健康関連イベントの参加者に配布して広報・啓発に努めた。
- ⑥ かかりつけ薬局を県民へ広報・啓発するため、チラシを増刷し、薬のセミナーや他団体等が主催する健康関連イベントの参加者に配布した。
- ⑦ 厚生省及び日薬が作成した「知っておきたい薬の知識」を購入し、他団体等が主催する健康関連イベントの参加者に配布して、正しい薬の知識の普及・啓発を図った。

(5) 自殺予防対策の推進(継続)

- ① 自殺予防に対する薬剤師の意識向上を図るため、自殺予防ゲートキーパー指導員養成ワークショップを新潟市で開催した。

講 師 ルーテル学院大学自殺危機初期介入スキル研究会認定講師 佐藤晶子 氏
齋藤大幸 氏
金子祥大 氏
- ② 自殺危機にある人に対し、薬剤師が服薬指導等のなかで、実際にどのように「気づき」・「つなぐ」ことができるかなど、今後の対応についてのスキルを身につけることを目的とし、薬剤師を対象とした研修会を開催した。

講 演 新潟県の自殺の現状と分析について
講 師 新潟県福祉保健部障害福祉課いのちとこころの支援室 波田野友巳 氏
講 演 新潟県薬剤師会の自殺予防対策事業の取組みと事例紹介
講 師 ルーテル学院大学自殺危機初期介入スキル研究会認定講師
新潟県薬剤師会 地域保健委員会本部委員 今井理央子 氏
- ③ 新潟県の自殺の現状について危機意識を共有し、官民一体となった自殺予防対策を推進する目的で新潟県が開催した自殺予防対策推進県民会議個別テーマ検討会(書面開催)に参加した。
- ④ 厚生労働省の自殺予防対策を推進するため、お薬相談窓口(フリーダイヤル)を支援情報検索サイト及び新潟県の心のセーフティーネットに登録した。

(6) 禁煙対策の推進(継続)

薬と健康のイベント等において禁煙支援を推進する目的で、肺機能測定器(ハイ・チェッカー)2台を

購入した。

13 ドーピング防止対策の推進

(1) ドーピング防止のための研修会の開催(継続)

ドーピング防止対策に関わる薬剤師の資質向上のため、日本アンチ・ドーピング機構主催のスポーツファーマシストのための情報提供研修会(Live On Seminar)の開催への協力を計画したが開催されなかった。

(2) ドーピング防止に関する啓発・広報活動の推進(継続)

- ① 適正なドーピング防止活動を行うために、ドーピング防止ガイドブック2020を会員薬局及び会員所属の医療機関に配布した。
- ② ドーピング防止に関する情報を会誌「ジャーニファ」等で広報した。

(3) ドーピング防止のための研修会への参加(継続)

会員及びスポーツファーマシストのドーピング防止活動を支援するために、日薬が主催する都道府県薬剤師会アンチ・ドーピング活動担当者等研修会に役員等が参加した。

14 電話相談事業の推進

(1) 電話相談の対応(継続)

新潟県から「薬事啓発事業」の補助を受け、フリーダイヤルを活用した県民からの薬に関する電話相談に応じた。

15 学術研修・生涯教育の充実

(1) 新潟薬学会の開催(継続)

会員の研究発表及び薬剤師としての学術的研鑽を支援するため、新潟県病院薬剤師会及び新潟薬科大学との共催により第161回及び第162回新潟薬学会の開催を企画していたが、第161回新潟薬学会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止した。なお、第162回新潟薬学会はWeb配信により開催した。

一般演題 7題

特別講演 「口腔内崩壊錠の機能性」 静岡県立大学薬学部 教授 並木徳之 氏

(2) 学術研修会の共催(継続)

新潟薬科大学「薬剤師生涯教育講座」、新潟県女性薬剤師会研修会等を共催した。また、薬剤師に関連のある各種研修会等を後援して広報することにより、薬剤師の生涯学習の機会を提供した。

(3) 薬剤師生涯学習関連事業の推進(継続)

- ① 日薬の生涯学習支援システムJPALSの広報・啓発に努めた。
- ② 効果的な薬剤師の生涯学習を推進するため、生涯学習地域薬剤師会担当者会議を開催して各地

域薬剤師会における状況と課題について情報共有と意見交換を行った。

- ③ 日薬の薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業として開催する次世代薬剤師指導者研修会(Web開催)に役員等が出席した。

16 広報・情報活動の推進

(1) 会誌「ジャーナル」の定期刊行(継続)

- ① 会誌「ジャーナル」を年4回発行して、会員の学術的研鑽や会員の交流の場等になるよう寄稿を積極的に働きかけ、掲載内容の充実に努めた。また、県薬事業の広報強化、会員への情報提供を図った。
- ② 日本薬剤師学会大会等の参加報告を会誌「ジャーナル」に掲載して広報に努めた。
- ③ 会員の利便性と刊行の効率性向上を目的に、会誌「ジャーナル」の電子データによる提供を検討するため会員を対象にアンケートを実施した。

(2) 日薬データベースへの参加(継続)

日薬データベース「Bunsaku」共同入力事業に参加した。

(3) 図書及び情報の整備(継続)

薬事情報センター機能の充実に努めるため、図書及び情報等の整備に努めた。また、薬物乱用防止教室のための資料等の貸し出しを行った。

(4) 薬事情報に関する研修会への参加(継続)

日薬が主催する薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会(Web配信)に職員が出席した。

(5) 県薬ホームページの管理(継続)

新潟県薬剤師会のホームページを管理し、内容の充実に努めた。

(6) メールニュースの配信(継続)

メールニュースの配信により、会員への即時性のある情報提供に努めた。

17 学術研究倫理審査

(1) 学術研究についての倫理審査(継続)

人を対象とする医学・薬学系研究を倫理的及び科学的観点から、会員等より申請のあった学術研究について倫理審査を実施した。

(2) 研究倫理に関する研修会の開催(継続)

薬剤師を対象とした研究倫理に関する研修会を開催した。

講演 研究倫理と研究計画書作成のポイント

講師 新潟大学医歯学総合病院薬剤部 副薬剤部長 笹原浩康 氏

(3) 研究倫理に関する研修会・講習会への参加(継続)

日薬が主催する「研究倫理に関する全国会議」に参加して情報収集を行った。

18 地域薬学ケア専門薬剤師制度への対応

(1) 地域薬学ケア専門薬剤師制度に係る研修調整(新規)

- ① 日本医療薬学会が開催した「新専門薬剤師制度の発足に係る全国研修会(Web開催)」に役員等が参加した。
- ② 日本医療薬学会が開催した『「地域薬学ケア専門薬剤師制度」に係るマッチング調整業務および申請手順等に関する説明会』に役員等が参加した。
- ③ 研修調整にむけた体制構築のため「地域薬学ケア専門薬剤師研修調整委員会立ち上げ準備会議」を開催した。

19 三師会等関係団体との連携

(1) 三師会との連携(継続)

- ① 新潟県における医療、保健、福祉の向上に寄与するため、新潟県三師会連絡協議会に参画して、三師会との連携を強化した。
- ② 新潟県三師会連絡協議会の事業・目的である県民の医療、保健、福祉に関する事項を達成するため、三師会による県民のための健康セミナー実行委員会へ参画した。
- ③ 三師会主催の県民向けの健康セミナーの開催を計画したが、中止となった。
- ④ 三師会社会保険担当理事連絡協議会は中止となった。
- ⑤ 三師会・国保連合会・支払基金保険事務懇談会は中止となった。

(2) 新潟県民医療推進協議会との連携(継続)

- ① 新潟県民の健康の増進と福祉の向上を図るため、新潟県における医療・介護・保健及び福祉行政の拡充強化をめざして、三師会等関係団体で構成する新潟県民医療推進協議会に参画して連携を強化した。
- ② 同協議会に設置されている在宅ケアにおける多職種協働推進委員会、健康寿命延伸にかかる多職種協働推進委員会等に参画して構成団体と連携を図った。
- ③ 健康寿命延伸にかかる多職種協働推進委員会へ参画するとともに、新潟県民医療推進協議会が主催する県民・多職種等を対象とした「健康寿命延伸フォーラム」へのブース出展を計画したが中止となったため、代替事業として県医師会と協力して一般県民向けにYouTubeにてライブ配信を行った。

(3) 新潟県薬事団体連絡協議会との連携(継続)

- ① 構成団体相互協力のもとに、業界の発展、公衆衛生の向上及び県民の健康維持増進に寄与することを目的とする新潟県薬事団体連絡協議会に参画して連携を強化した。
- ② 新潟県薬事団体連絡協議会の事務局を担当して総会を開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から文書審議により総会を開催した。

(4) その他の関係団体との連携(継続)

- ① 公益財団法人新潟県健康づくり財団に参画した。
- ② 新潟県糖尿病対策推進会議に参画した。
- ③ 新潟県歯科保健協会に参画した。
- ④ 新潟県小児保健研究会に参画した。
- ⑤ 新潟母性衛生学会に参画した。
- ⑥ 新潟栄養・食生活学会に参画した。
- ⑦ NPO法人新潟難病支援ネットワークに参画した。
- ⑧ 公益財団法人新潟県臓器移植推進団体に参画した。
- ⑨ 新潟県交通安全対策連絡協議会に参画した。
- ⑩ 新潟県介護支援専門員協会に参画した。
- ⑪ 新潟県地域包括ケア支援専門職協議会に参画した。
- ⑫ その他関係団体との連携を強化した。

20 北陸信越ブロック薬剤師会との連携

(1) 北陸信越ブロック連絡協議会との連携(継続)

北陸信越ブロック連絡協議会に出席して、北陸信越ブロックの各薬剤師会と連携を図り、情報交換に努めた。

(2) 日薬(北陸信越)ブロック会議への参加(継続)

日薬(北陸信越)ブロック会議に出席して、日薬事業の確認とブロック内の情報交換・意見交換を行った。

21 薬剤師学術大会への対応

(1) 日本薬剤師学術大会への参加(継続)

会員の資質向上に寄与するために、日本薬剤師学術大会に役員等を派遣し、参加した役員が会誌「ジャーニファ」等で報告した。

(2) 北陸信越薬剤師大会等への参加支援(中止)

北陸信越薬剤師大会及び北陸信越薬剤師学術大会への会員の参加支援を行うことを計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い大会が中止となった。